

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190300238		
法人名	九州メディカル・サービス株式会社		
事業所名	グループホーム安心 とどろきⅡ		
所在地	佐賀県鳥栖市轟木町1474番地2		
自己評価作成日	令和5年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和5年2月15日	外部評価確定日	令和5年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○介護福祉士の国家資格を保有する職員は年平均70%以上をキープしており、質の高い介護が提供できる環境が整っています。</p> <p>○協力医療機関との医療連携により、ご利用者の健康管理や急変時の迅速な対応ができ、安心して生活して頂けます。</p> <p>○ご利用者が暮らしやすい明るく和やかな環境を作るために、職員間の意見交換や共通認識、コミュニケーションを図る場を多く設けると共に、研修(内部・外部)勉強会等への積極的な参加を行い、職員一人一人のキャリアアップに努めサービスの質の向上を目指しています。</p> <p>○ご家族に安心して頂けるように、日々の生活状況の写真を撮り、毎月送付したり、ホームページのブログに日々の活動をアップしご家族の信頼、安心を得られるように努めています。</p> <p>○ケアマネジメント業務に職員全体で取り組み、ご利用者・ご家族の意向に沿って、生きがいや楽しみを持って過ごして頂けるように支援を行っています。</p> <p>○施設内で生活リハビリを実施しており、ご利用者の自立支援に努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>法人が経営する病院の近く、住宅街の中に存在している。創立1年半を経過し利用者も職員も安定して来た。管理者は利用者や家族の思いや希望に沿い施設で家に近い生活が出来る様に支援されている。職員の70%以上が有資格者であり質が高く、安心安全な支援が行われ心強く利用者は穏やかである。利用者の中に生け花の先生がおられ利用者は季節の花を活け、作品は写真に残し、玄関やホームの各所に飾られ励みになっている。コロナ禍の為多くの制限がある中ホーム内で出来る事を見つけ、利用者の楽しみに繋がる事を考えられている。すぐ隣には6月にオープン予定の施設が建設中である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の事業目的及び運営方針の唱和を毎日の朝礼時に行っている。また事業所独自の理念を掲示し職員間の意識の統一や意識向上を図っている。	法人の理念もあるが、ホーム独自の理念は職員と共に作成され事務所、玄関に掲示されている。朝礼時に唱和され理解し守られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は施設周辺の散歩に出かけたり、お地藏様のお参りに行ったりしている。定期的にドライブレクリエーションや外出レクリエーションを企画している。また地域の方から消防避難訓練や運営推進会議などにご協力を頂いている。今後は感染状況を踏まえつつ地域行事への参加や施設行事の際はボランティアを招いたりしていきたい。	自治会に加入はしていないが、区長、民生委員の方には挨拶に行き、その際に情報を得ている。事業所の周囲の民家とも顔合わせは出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学の際にはご入居者への支援の方法や施設の取り組み内容を具体的にお伝えしている。当施設のサービスを一方的に説明するのではなくあくまで地域貢献の為の情報共有を実践する立場を意識している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催。ご入居者の状況や行事計画の報告を行っている。また勉強会の実施等も報告をしている。ご家族や行政からの意見を議事録として記録し改善に努めている。また地域行事等の情報収集、地域課題把握の場としても活用している。	2ヶ月に1回開催されている。以前は家族の参加は多かったがコロナ禍の為少なくなった。会議の案内は家族全員に出されている。行事、活動報告や勉強会も報告されている。出席者から多くの意見、質問が出され説明されている。行政には報告書の提出もされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加頂く等良好な協力関係を保つように努めている。今後は感染状況を踏まえつつ行政主催の研修会への参加していきたい。地域ケア会議、地域包括支援ネットワーク会議、自立支援会議等に参加をしていき、協力関係の構築に努めていきたい。	困り事や相談は法人に伝えられ、不明点は地域の広域連合に相談されている。介護保険の更新等代行されている。運営指導も受け改善されている。今後も行政との連携は続けていきたい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を設置して定期的に話し合いの場を設けている。また勉強会を開催して職員の理解及び意識付けに努めている。今後研修会への参加を行い、更に知識を得ていきたい。	拘束の事例はない。3か月に1回全員参加で委員会、虐待防止も含め拘束のないケアに努め、勉強会が行われる。言葉の拘束にも注意され、不適切なケアになっていないか等禁止や弊害を理解されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所での社内研修年間スケジュールを作成して高齢者虐待防止法についての勉強会を立案・実施している。管理者は職員のストレスケアに努め、個別の話し合いの場を設ける等工夫を行っている。また不適切ケアを正し虐待の芽を摘む視点を持って取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加していく。また研修に参加した職員は施設勉強会で発表報告を行い情報共有は図り、職員一人一人が理解していくための機会を設けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約・改正時の際は説明を十分に行い理解・納得を得られるように努めている。質問等があれば随時対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に要望BOXを設置すると共に来訪者が見やすい場所に相談窓口の掲示を行っている。要望や苦情があった際は報告書をまとめる等行っている。	面会や電話で要望を聞いている。家族からは利用料金等の質問もある。業務優先にならない様にルールを決め取り組んでいる。意見箱は玄関においてあるが活用はない。外部に相談窓口がある事は入居時に説明されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを実施して職員の意見や提案を管理者を含め参加者全員で話し合い、運営に反映できるように努めている。また課題がある場合はその都度話し合いを行い対応している。	法人内での異動は行われる。職員は意見が言い易く管理者に伝え、法人に提出される。職員同士はコミュニケーションが良く助け合い、働き易い職場である。有資格者が多く意見も纏まり易い。	
k		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は同法人内の会議にて現状報告を行っており、現場職員の意見は随時代表者・取締役へ報告している。また質問や意見、改善提案等についてもその都度話し合いの場を設けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は随時面談を行い、職員一人一人の力量の把握、希望時は資格取得のための支援を行っている。また行政主催の研修会へ参加を今後促していきカンファレンスや自施設での勉強会で報告していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政主催の研修会等に参加して同業者と交流を持ちサービスの質の向上に繋げていきたい		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学の希望があった際は丁寧な案内と本人様からのヒアリングを心掛け、可能な限りご要望に応えられるように努めている。入居希望時には事前に情報収集の機会を設ける等安心して入居して頂けるように努めている。また必要であれば体験入居も受け付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入居を希望されるご家族には施設の運営規程を十分説明を行うとともにご家族の不安や要望を伺い、良い関係を築けるよう努めている。またどのように過ごされているか等、様子を電話や面会時報告、毎月写真送付する等工夫を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に収集する情報やご本人とご家族の意向を伺い必要であれば他サービスを取り入れた支援ができるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しやたたみ、おぼん拭き、掃除等家事作業をご入居の方々に参加いただき職員だけでなくご入居者と協力し合える環境作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとにはご家族を招待してご本人とご家族の交流を深めたりしていきたい。ご家族面会時はゆっくりお話ができる環境を配慮している。また積極的に情報提供に努めている。定期的に電話で近況を報告するなどして関係構築に努めている。必要時には外出、買い物支援を依頼することがある。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の面会もあり毎月希望があれば買い物へ行ったり、天気が良い日は散歩や参拝している。また本人がやりたいことを聞き取りその実現に向けた個別の取り組みを行っている。最近ではコロナ禍でなかなか実施に至ってはいない状況。	コロナ禍で面会は出来ないが1日1組程度玄関で窓越しの面会が行われる。家族との面会は喜ばれ顔や様子が解り安心され、子供を見ると元気になられる。電話の取次ぎもあり会話を楽しんでいる。今後コロナ禍が緩和され、早く面会が出来るようになり利用者がストレスから解放される事を期待したい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃からレクリエーション等を通して入居者様同士が関り合える環境を作るとともに各々の居室を訪問し合ったり日常生活の中で職員が間に入り入居者様同士が支えるような環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居や転居された後でもお便りを送付したりこれまでの関係性を大切にしながら必要に応じて相談や助言等ができるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者それぞれに担当職員を配置し、ご入居者の思いや要望を随時確認できるように努めている。日頃の会話や表情からご入居者一人一人の想いを把握したり直接ご本人より聞き取り、サービス担当者会議時に話し合い本人本位に検討している。	担当者は利用者の日常生活の中で思わぬ表情や行動を観察し記録に残しケアプラン作成に活かされている。担当者は利用者や家族に要望や意見を問いかけている。意思疎通の出来ない方には家族に聞いたり傍に寄り添い対応されている。申し送りの記録はタブレットを使用されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話だけでなく、ご家族からもご本人の生活歴、馴染の暮らし等をお聞きし、これまでの暮らしを尊重した生活が送れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者一人一人の現状把握や状況を些細なことでも日々の記録として残し、職員が把握できるように努めている。またICT化の申し送り事項を活用して細かな情報共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者それぞれに担当者を決めて、ケア会議等を行い新たな課題がないか検討するとともにサービス担当者会議を定期的開催しケアのあり方について話し合いを行い、介護計画を作成している。また本人、ご家族の意向も確認し介護計画の作成に努めている。	担当者は記録を基に利用者の体力の変化や家族の希望を確認し職員の意見も取り入れ、現状に沿ったプランを作成している。3か月に1回プランの見直しをしているが途中体調の変化があれば話し合い変更され家族にも報告されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの中で気づき等があれば些細なことでも個人記録に記入し介護計画の見直しに活かしている。また職員間で情報共有が出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族のご面会時に話を聞いたりして対応が必要な事項についてはその時々で臨機応変に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際にはボランティアの方々を招待してご入居者が楽しむことができるようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がある場合にはご家族の協力の下、継続して受診、往診ができるように支援している。また法人内には協力医療機関や訪問看護ステーションがあり、連携を取り適切な医療を受けて頂けるように支援している。	受診は利用者、家族の希望に沿っている。往診は月2回。3か月に1回かかりつけ医で健康診断を受け体調の管理がされている。他科の受診は状況報告書を発行し、薬の変化の指示を受けられ家族にも報告されている。生活の中で自立に合ったメニューを理学療法士・作業療法士の指導でリハビリが行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態観察を行い、その内容についても訪問看護師と日常的に共有を図っている。異常があれば直ぐに担当医師・訪問看護師に報告し適切な受診や看護を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際にはADL情報のみならず、施設での生活状況や普段の様子、支援するうえで行っている工夫等の細かな情報提供に努めている。また施設で対応可能な医療依存度やリハビリ機能を説明することでできるだけ早期に退院できるように情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人、ご家族の希望を伺い、重度化や終末期についての希望、意見を確認している。ご入居者の状態変化に応じて随時意向を確認してご家族・主治医・訪問看護・職員が連携してご本人の望む支援ができるように努めている。	入居時に重度化や終末期の方針について家族に説明され同意を得ている。事例はない。看取りまで家族は面会され、体調変化や家族の思いをその都度話合われ、最後は家族の希望を優先とする。エンゼルケアも行われる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時・緊急時対応マニュアルを整備し事故発生時に実践できるように努めている。また入職者には必ず確認、説明することで誰でも初期対応が出来るように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の防火チェックや年2回の消防訓練(避難・通報・消火)を行い災害時に迅速な対応ができるように職員へ指導している。また訓練の際には地域の協力が得られるように声かけをしている。	年2回消防署や業者の立会いで夜間想定 of 訓練を利用者の参加で行われる。地域の参加はないが併設の応援体制は出来ている。訓練後は消火器の使い方、置き場所の説明や訓練の講評がある。家族は避難場所は知っている。備蓄の準備もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者の人格の尊重とプライバシーに配慮した言葉かけや対応を心かけるとともに敬意を表した対応を心かけている。また定期的に接遇の勉強会を開催している。職員にチェック表を記載してもらい、振り返りにも活用している。	事業者内で接遇の研修は全員参加で行われている。言葉遣いは大事にされ大声、声のトーン、声のかけ方等気配りされている。利用者の呼び名は希望により名前で声掛けされている。重要書類の保管や管理、秘密保持も周知されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からご入居者の話を伺いご入居者の希望や要望に沿った生活ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者の体調やペースに合わせ、その都度ご本人の意向を確認しながら希望に沿った支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問理美容の方に来訪頂きカット・カラー・パーマをご利用頂いている。またレクリエーションの一環で化粧の日を設けてお化粧したりマニキュアをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食前には食器等の準備、食後の片付け、テーブル拭き等できる範囲の事は一緒に行っている。季節に合わせたお菓子作りを行ったりして一緒に食事を楽しめるよう支援している。	食材は外注である。料理の手伝いはないがテーブルやお盆拭き、おにぎりの上手な方等出来る事を手伝っている。行事、季節食にも対応されている。おやつ作りはホームで準備され職員が季節の材料を加え、ひと手間掛け美味しく出来ている。利用者の食べ易い形態にし完食されている。リビングの中央の台所が調理の様子や匂いが伝わってくる。介助の方には職員が声かけをしながら、また利用者同士も会話しながら楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせた食事形態や食事を随時検討して一覧表を作成している。また水分・食事摂取量はICT化にてタブレット入力し栄養バランスが把握できるようにしている。摂取量が少ない方には高カロリー栄養補助食等提供出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご入居者一人一人に歯磨きの声かけを行い、状態に合わせた個別ケアを行っている。必要時は訪問歯科を利用して口腔内の確認を行っている。またマウスウォッシュを使用し清潔にも配慮している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別に排泄の記録を行い排泄パターンを把握、オムツを使用しない工夫を検討してトイレにて排泄が行えるように工夫している。	排泄チェック表を参考に自立出来るように可能な限り声掛けして誘導されている。下着の上げ、下げの出来る方は見守り、自立出来た方もある。排便の困難な方には牛乳を提供したり、医師の指導で投薬で改善されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬には頼らず水分補給時には乳製品を提供する等の工夫をしている。また水分摂取量の記録を行い不足時にはその都度摂取して頂くよう声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、一人一人の体調を見て入浴日を変更したりその方に応じた入浴の支援を行っている。また入浴剤を使用するなど入浴を楽しめる工夫を行っている。	入浴の順番の決まりはない。利用者のその時の気分に合わせている。週2回で入浴剤を使用し気持ち良く出来ている。風呂はゆっくり話が出来る時間である。自分で衣類の着脱の出来る方や体洗いの出来る方もあり見守られている。湯上りに乾燥予防の為乳液を使用される方もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者の状態に応じて休息を促している。自室で休まれるときは室温調整や明るさの調整等行い気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のファイルに薬事情報(説明書)を挟みいつでも職員が確認できるようにしている。また内服薬の変更・追加時はその都度協力医療機関の看護師や薬局の薬剤師より説明を受けている。服薬介助する際は職員2名で確認して誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴や能力に応じて出来ることを見極め、張り合いや喜びを持って生活できるように役割分担したり気分転換できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近場の買い物や外出については希望に沿って支援している。またご家族の協力のもと出かけられるように支援している。コロナ禍でなかなか実施が難しい状況。	コロナ禍の為思い通りの外出は出来ないが下車しないでドライブに出かけ窓越しに季節を感じられている。正月は神社へのお参りが出来なかったので職員が用紙に鳥居を赤で大きく書き、お賽銭箱も用意し、神社に見立てお参りされ、その気分を楽しまれた。気分転換は職員がアイデアを出しゲーム、昔遊びや作品作りを考えられている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約上、原則として金銭の持ち込みは禁止しているが、例外的に金銭の自己管理が可能の方や希望者に関しては本人やご家族に確認の上所持が出来るようにしている。また外出時には所持金を使うことができるように必要な支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望・要望時には電話をかけたり、手紙のやり取りができるように支援している。必要であれば職員がコミュニケーションの仲介が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けをしたり、観葉植物を置いたりして居心地よく過ごせるような工夫をしている。またレクリエーションの一環で生け花をして頂き玄関を飾って頂いている。またトイレや洗面所、食堂等の共有空間の環境整備に努めている。	リビングは明るく音楽が流れている。中央に台所があり周りは広い廊下があり、リハビリ、運動が出来る。周囲には障害物も無く安全に移動出来る。YouTubeの音楽に合わせてタオルや棒を使っての体操は日課になっている。台所から利用者の様子が見られ、メニューも掲げられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファを設置する等している。また空間を広く使用でき解放感を感じられるような家具の配置に努めている。簡易な椅子を設置したり他居室への移動を希望される際に移動の支援をする等それぞれ好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具等を持ってきて頂き居心地よく過ごせる工夫をしている。また定期的にご本人やご家族の意向を聞きながら必要な方には居室の模様替えを手伝っている。	持ち込みは自由であるが多くの持ち込みはない。ベッドはセンサー付きで利用者の動きや情報がタブレットやパソコンで管理されている。またベッド上で体重測定が出来利用者、職員の負担も軽くなっている。仏壇やテレビ、タンス、ソファ、家族の写真等見受けられた。居室の掃除は利用者ができる方と職員で行われ、整理整頓され過ごし易くなっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない造り、手すりの設置・時計・日めくりカレンダーの設置等、居室・共有スペースに工夫を行い必要に応じた環境作りを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない